

# 仕 様

形 名	HEM-3705		HEM-4605	
設 置 場 所	屋内用		屋内用	
タンク容量	370ℓ		460ℓ	
定 格	発 熱 体	单相200V 4.4kW	单相200V 5.4kW	
	制 御 用	单相100V・約8W		
沸き上げ湯温	約55℃～約90℃			
本体寸法 (mm)	高さ1688×φ682		高さ1719×φ730	
重 量	本 体	約49kg	約55kg	
	満 水 時	約419kg	約515kg	
安 全 装 置	漏電しゃ断器・温度過昇防止器・アース端子			
温 度 検 知	サーミスター			
発 熱 体	ステンレスパイプシーズヒーター			
リ モ コ ン	操 作	表示切換スイッチ、停止日数スイッチ、湯温設定スイッチ(自動、高く、低く)		
	表 示	湯温・停止日数デジタル表示 湯温・停止日数表示切換ランプ 深夜電力モニターランプ ヒーター通電モニターランプ 残湯量ランプ(湯量ご注意、50ℓ、100ℓ、150ℓ) 自動ランプ 湯温設定ランプ(1、2、3、4、5)		
	寸 法 (mm)	幅90×奥行21.5×高さ185		

形 名			
ご購入(据付け)年月日	年	月	日
据付け工事店名			
	TEL		

お客様へ……おぼえのため、形名、ご購入年月日、据付け工事店名を記入されると便利です。

**HOLS 株式会社ほくでんライフシステム**

# HOLS 電気温水器取扱説明書

ほくでんライフシステム

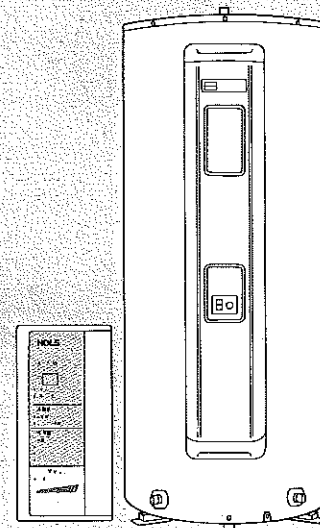
## 形 名 HEM-3705・HEM-4605

このたびは、**HOLS**電気温水器をお買い上げいただきましてまことにありがとうございました。

### 屋内形

マイコン

8H  
通電制御型  
8時間通電



この電気温水器は、申請によって通電制御型として料金引きが適用されます。ご不明の場合は、必ず据付け工事店または最寄りの電力会社にご相談ください。

ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みください。お読みになった後はたいせつに保存してください。万一ご使用中にわからないことや不具合が生じたとき、きつとお役にたちます。

### も く じ

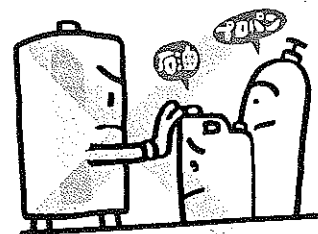
ページ

- 必ずお守りください…………… 1
- 各部のなまえとはたらき…2～5
  - ・本体
  - ・リモコン
  - ・本体周辺部
- 据付け後のご確認…………… 6
- ご使用方法…………… 7～12
  - ・使用前の準備
  - ・お湯の上手な使い方
  - ・リモコンの使い方
- 凍結防止について……………13～14
  - ・必ずお読みください
  - ・凍結防止ヒーターによる方法
  - ・水抜きによる方法
- 寒冷地仕様についてのご注意…15
- 日常の点検とお手入れ……16～17
  - ・配管の点検
  - ・タンクのお手入れ
  - ・漏電しゃ断器の点検
  - ・逃し弁の点検
  - ・お湯の出が悪くなっているとき
- 長期間使用しないときには……18
  - ・タンク内の水抜きをする場合(1ヶ月以上)
  - ・タンク内の水抜きをしない場合(1ヶ月以内)
- 注意していただきたいこと……19
- 修理を依頼される前に……20～21
  - ・こんなときは故障ではありません
- 定期点検のおすすめ(有料)……21
- アフターサービスと保証……22
- 仕様……………23

# 必ずお守りください

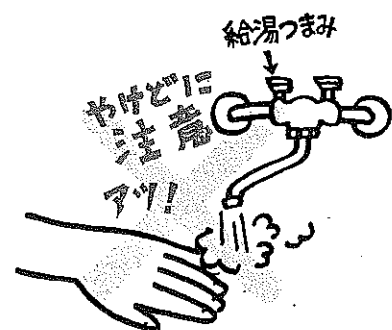
## 1. 温水器の近くに引火物を置かないでください。

温水器の近くに、火気やガスボンベなどの引火物はおかないでください。



## 2. 「やけど」にご注意ください。

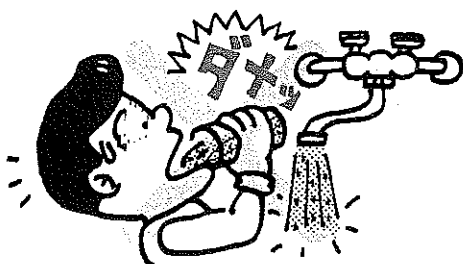
朝の使いはじめは、給湯つまみを開いたとき空気の混ざった熱湯が出る場合があります。また、使用中は湯水混合水せんから熱いお湯が出ますので「やけど」にご注意ください。



水せんは湯水混合水せんを使用することをおすすめします。特に浴室ではサーモスタット付混合水せん等の使用をおすすめします。

## 3. 飲用はさけてください。

タンクは、長期間のご使用により「水あか」や配管系統の材料劣化などにより水質が変わることがありますので飲用することはさけてください。



## 4. ヒーターの「空焼き」に注意してください。

タンクに水が入っていることを確かめてから深夜電力電源200Vのブレーカーを「入」にしてください。水を入れずに電源を入れるとヒーターの故障の原因となります。



# 各部のなまえとはたらき

## 本体

### 給湯口

本体からのお湯の出口です。

### 漏電しゃ断器 テストボタン

万一漏電したときに動作するかをテストするボタンです。通電中にボタンを押すと電源レバーが「切」になります。

### 操作部カバー

カバーを開けると漏電しゃ断器電源レバーとテストボタンがあります。

### 漏電しゃ断器 電源レバー

このレバーで深夜電力電源を「入」・「切」することができます。使用中は常に「入」にしておきます。

### タンク負圧保護装置用 ゴムホース

タンクが万一負圧を受けたとき空気を吸い込みタンクを保護する装置です。

### リモコン収納ケース

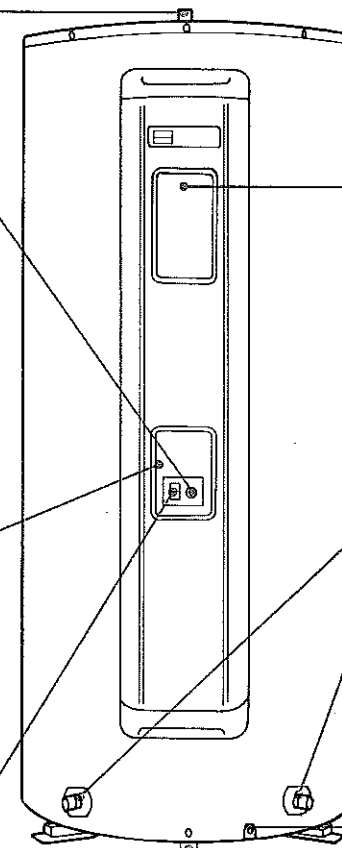
リモコンを本体に取付けるときに使います。

### 給排水口

左と右にあります。給水用と排水用に使い分けられます。

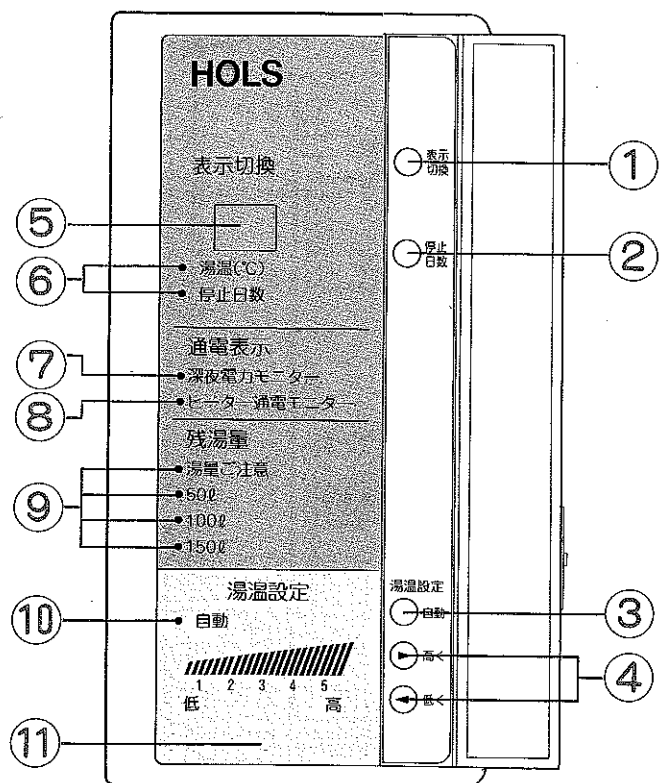
### アース端子

本体を「接地」するためのアース線接続端子です。



# 各部のなまえとはたらき

## リモコン



### ①表示切替スイッチ (11・12ページ)

デジタル表示を切り換えるときに使用

湯温 ↔ 停止日数

### ③自動スイッチ (9ページ)

自動運転の設定/解除に使用

### ②停止日数スイッチ (12ページ)

運転停止日数を設定するときに使用

### ④湯温設定スイッチ (10ページ)

沸き上げ湯温の設定に使用

## ⑤デジタル表示

<b>湯温表示</b> (11ページ)  ● 湯温(°C) ○ 停止日数	タンク上部のおおよその湯温表示
<b>停止日数</b> (12ページ)  ○ 湯温(°C) ● 停止日数	お湯を沸かさない日数(運転停止日数)表示
<b>異常表示</b> (19ページ)  ● E0~E4, E6表示 ● この表示が点滅しているときは異常です。据付け工事店にご連絡ください。	

## ⑥表示切替ランプ

デジタル表示の内容を示す。

## ⑦深夜電力モニターランプ

点灯 深夜電力供給中を示す。

## ⑧ヒーター通電モニターランプ

点灯 ヒーター通電中を示す。

## ⑨残湯量表示ランプ (11ページ)

残湯量 ● 湯量ご注意 ● 50ℓ ● 100ℓ ● 150ℓ	残湯量 150ℓ以上
残湯量 ● 湯量ご注意 ● 50ℓ ● 100ℓ ○ 150ℓ	残湯量 100ℓ以上 150ℓ未満
残湯量 ● 湯量ご注意 ● 50ℓ ○ 100ℓ ○ 150ℓ	残湯量 50ℓ以上 100ℓ未満
残湯量 ● 湯量ご注意 ○ 50ℓ ○ 100ℓ ○ 150ℓ	残湯量 25ℓ以上 50ℓ未満
残湯量 ● 湯量ご注意 ○ 50ℓ ○ 100ℓ ○ 150ℓ	残湯量 25ℓ未満

## ⑩自動ランプ

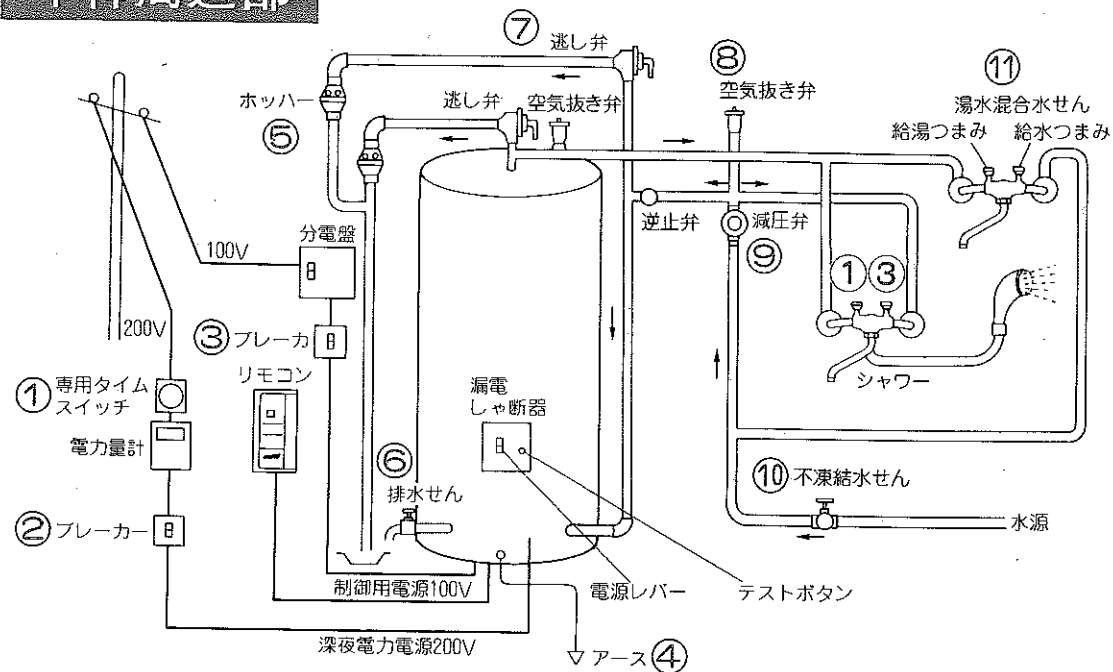
点灯 自動運転を示す。

## ⑪湯温設定表示ランプ (10ページ)

表示	湯温設定
 低 1 2 3 4 5 高	約90℃
 低 1 2 3 4 5 高	約82℃
 低 1 2 3 4 5 高	約73℃
 低 1 2 3 4 5 高	約64℃
 低 1 2 3 4 5 高	約55℃

# 各部のなまえとはたらき

## 本体周辺部



### ①専用タイムスイッチ

深夜電力電源(200V)の供給を自動的に「入」「切」します。

### ②200V電源ブレーカー

200V電源の「入」、「切」をします。

### ③100V電源ブレーカー

100V電源の「入」、「切」をします。

### ④アース

万一の感電を防ぎます。

### ⑤ホッパー

排水管が凍結したときにも逃し弁からの膨張水が排出できるようにします。また、タンク排水時に逃し弁からの空気取入れ口にもなります。

### ⑥排水せん

タンク内の水を排水するときに操作します。

### ⑦逃し弁

沸き上げ時の膨張水を排出しタンク内を一定圧力にします。

### ⑧空気抜き弁

タンク内にたまった空気を排出します。

### ⑨減圧弁

タンク内への給水圧力を一定にします。

### ⑩不凍結水せん

タンク内への「給水」、「止水」と凍結防止時、水抜きとして機能します。

### ⑪湯水混合水せん

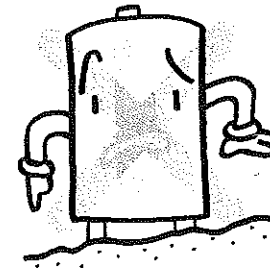
お湯を取り出します。

# 据付け後のご確認

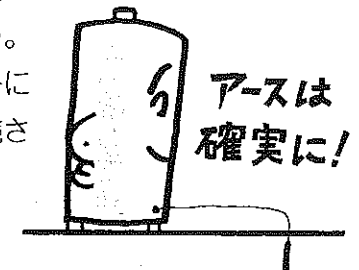
## 確認事項

正しい据付け工事が行われたことを確認するため据付け工事店とともに試運転を行ってください。

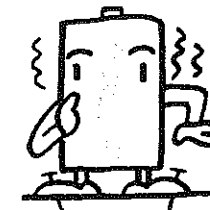
- 温水器の設置場所は、温水器の重量に耐え、足場がしっかりしており、長い間に傾いたりする恐れはありませんか。



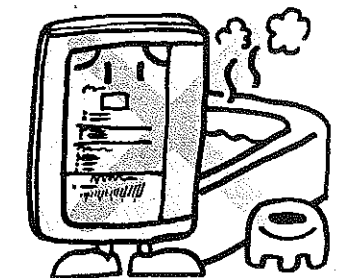
- アース工事が施工されていますか。本体アース端子にアース線が接続されていますか。



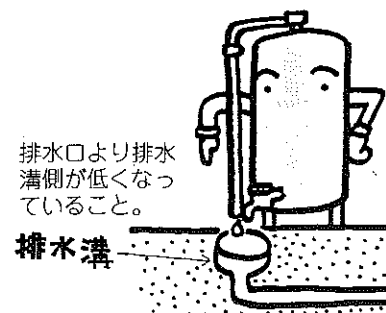
- リモコンの位置を確認してください。リモコンは浴室など湿気の多い所やガステーブルの上などの高温になる所または屋外への取付けはキケンです。



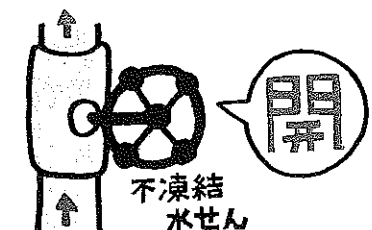
- 脚部をアンカーボルトで固定してありますか。地震の際に本体の転倒を防ぎます。



- 各排水口(逃し弁・タンク)は排水管(溝)に確実に導かれていますか。万一、水漏れしても漏れた水が排水溝に確実に導かれるようになっていますか。



- 不凍結水せんがどこにあるか確認してください。タンク内の水抜き、万一の水漏れ、故障の際に閉じると水は止まります。凍結のおそれのあるときは常時使用します。



- 冬期の凍結防止対策について据付け工事店に確認してください。(くわしくは13、14ページ)

- 配管に保温材が巻かれていますか。(配管内の湯温低下や凍結防止のため重要です。)



# ご使用方法

## 使用前の準備

使いはじめやタンクの清掃後などでタンクが「空」の状態のときは次の手順で操作してください。

### 給水

- ① 湯水混合水せんやシャワーの給湯つまみを開きます。
- ② 不凍結水せんを開きます。
- ③ 湯水混合水せんやシャワーから水が出てきたら満水です。  
給湯つまみを閉じます。

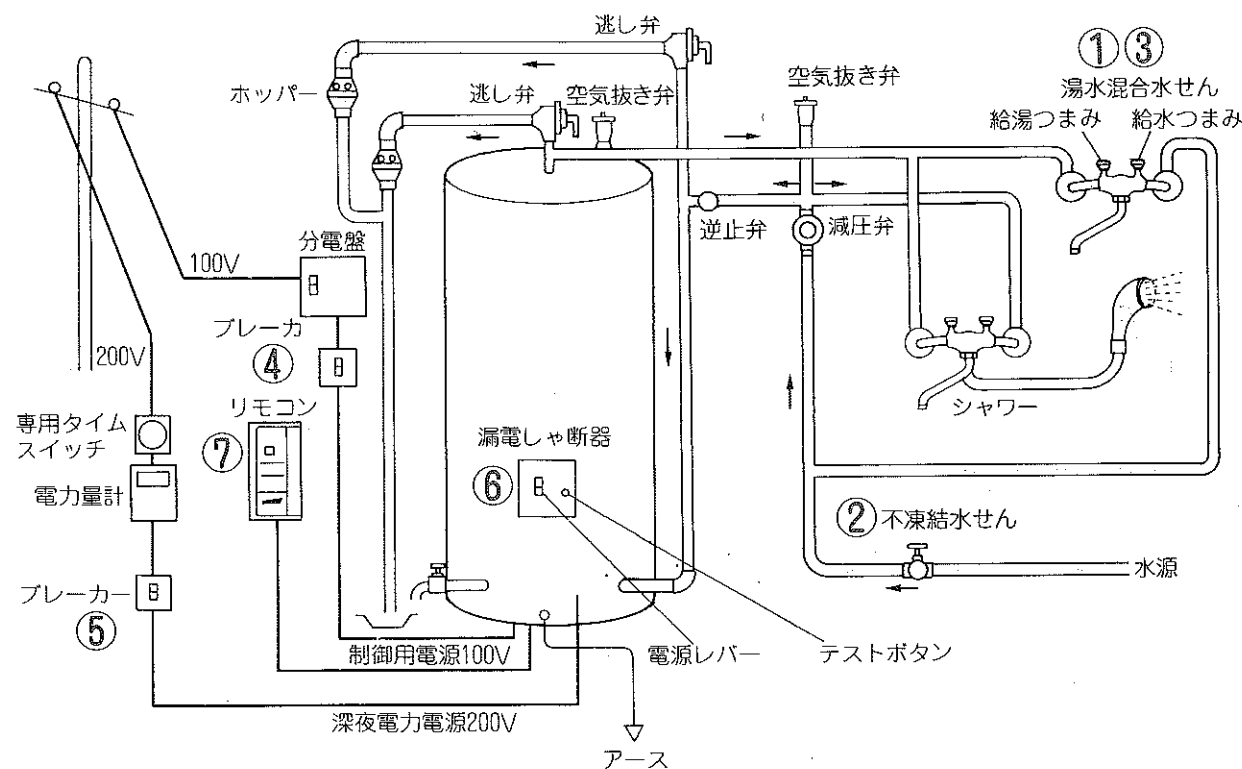
(空の状態から満水までは約40分ほどかかりますが、タンク容量によって多少変わります)

### 電源

- ④ 温水器の制御用電源100Vのブレーカーを「入」にします。
- ⑤ 深夜電力電源200Vのブレーカーを「入」にします。
- ⑥ 漏電しゃ断器の電源レバーを「入」にします。
- ⑦ リモコンの湯温設定スイッチで「自動」にセットします。(9ページ)

※通電は専用のタイムスイッチにより毎日自動的に行われます。

翌朝から湯水混合水せんを開くだけでお湯が得られ温水器には自動的に給水されます。



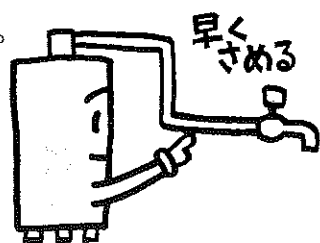
## お湯の上手な使い方

特に冬期は水温が低くなり、ムダな使い方をしますと湯量不足になることがありますから上手に使いましょう。

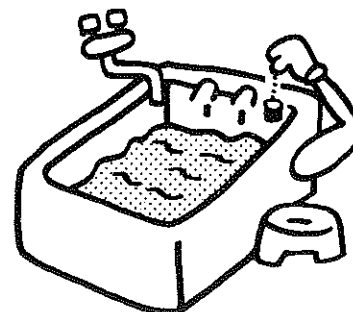
- 流し洗いはお湯のムダ使いになります。  
お湯は容器に受けて使いましょう。



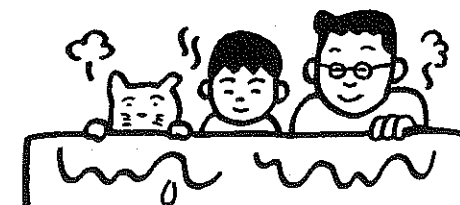
- 配管内のお湯は早くさめます。  
給湯せんの開閉回数をできるだけ少なくすると効果的です。



- お風呂への足し湯は浴槽内の湯を少し減らしてから行くと節約できます。



- 入浴はできるだけヒーター通電中を避けて連続して入るようにしましょう。  
通電中にお湯を使うと翌日の湯温が低くなる可能性があります。

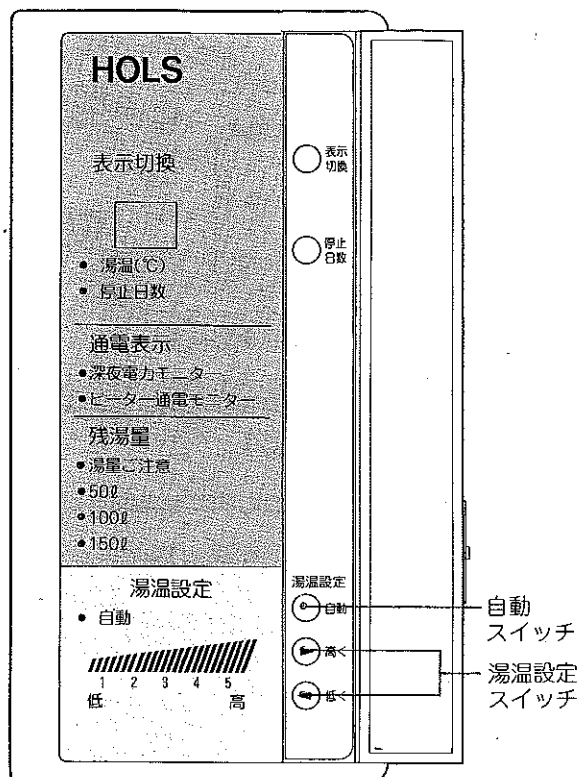


# ご使用方法(リモコンの使い方)

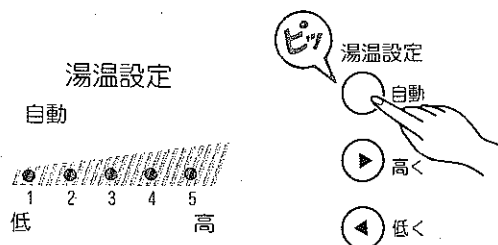
自動運転………通常の使用はこの設定が、手間入らずで経済的です。  
 マニュアル運転………ご家庭の使用湯量、家族構成の変動、来客のご予定などに合わせて切換えて使用するとより経済的です。

- 深夜電力供給時間帯に停電が発生し、復帰した場合はただちにヒーターに通電します。
- スイッチを操作すると電子音(ピッ)がします。表示ランプを確認しながら操作してください。

## 沸き上げ湯温設定(自動運転)



### 自動スイッチを押す



自動運転を解除するときは、「自動」をもう一度押すか「高く」、「低く」のいずれかを押しします。

### 自動運転とは

過去の使用湯量と給水水温から、翌日の使用湯量を予測し、約65℃～約90℃に沸き上げます。

### 沸き上げ湯温のめやす

湯温設定表示ランプで沸き上げ湯温設定のめやすを表示します。

表示	湯温設定
●自動  低 高	約87℃～約90℃
●自動  低 高	約78℃～約86℃
●自動  低 高	約69℃～約77℃
●自動  低 高	約65℃～約68℃

●給水水温10℃以下残湯量20ℓ未満の場合は90℃まで沸き上がりません。

### 上手な使い方

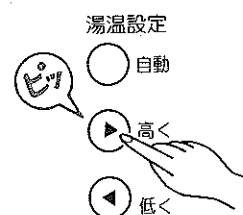
- 毎日の使用湯量がほぼ一定していると維持費の節約ができます。
- 来客などで使用湯量が急増する場合や冬場熱いお湯が必要なときなどは、まえもってマニュアル運転で湯温設定を「5」に切換えてください。

## 沸き上げ湯温設定(マニュアル運転)

- 使いはじめは「5」に設定してください。残湯量が多い場合は順次低い湯温設定に切換えます。湯量が不足の場合は高い設定に切換えます。
- 湯温設定スイッチにより約55℃～約90℃の範囲で5段階の沸き上げができます。

### 湯温を高くするとき

#### 湯温設定スイッチ「高く」を押す



湯温設定表示ランプが「1」から「5」の方向へ点灯していきます。

### 湯温を低くするとき

#### 湯温設定スイッチ「低く」を押す



湯温設定表示ランプが「5」から「1」の方向へ消灯していきます。

### 湯温設定表示

表示	湯温設定
○自動  低 高	約90℃
○自動  低 高	約82℃
○自動  低 高	約73℃
○自動  低 高	約64℃
○自動  低 高	約55℃

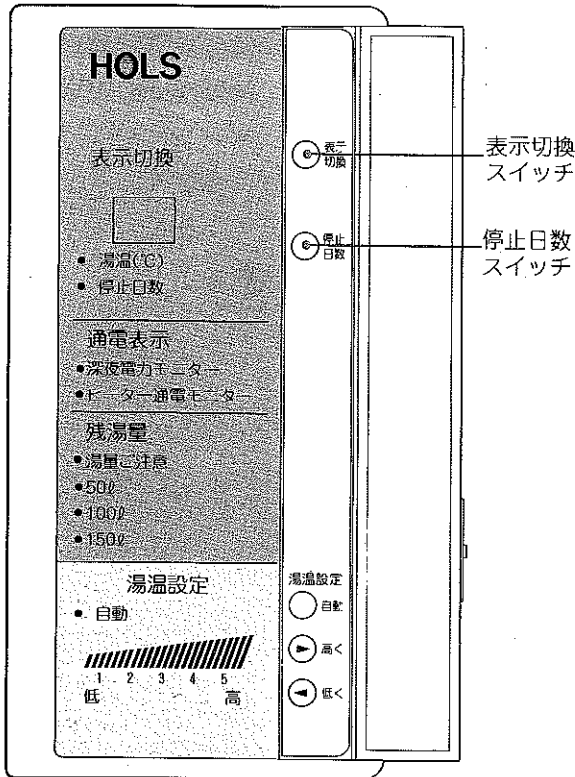
### 上手な使い方

- 毎日残湯量が150ℓ以上あるときは、1段低い設定に切換えると維持費の節約ができます。

- 給水水温10℃以下残湯量20ℓ未満の場合は90℃まで沸き上がりません。
- 沸き上げ湯温は、沸き上げ直後のタンク内の温度で時間の経過とともに少しずつ低下します。また湯温は2～3℃ばらつくことがあります。

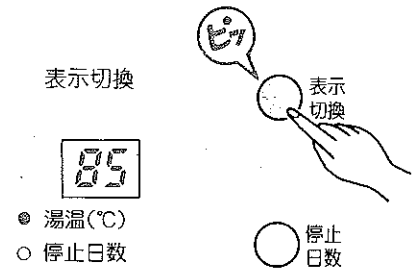
# ご使用方法(リモコンの使い方)

## 湯温表示



タンク内上部の湯温を表示します。

表示切換スイッチを押して、表示切換ランプを「湯温」にする。

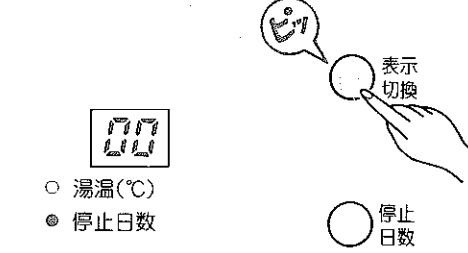


● 給湯せんから出るお湯は配管条件によって表示湯温よりも2～3℃低くなる場合があります。

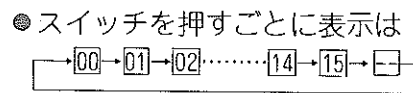
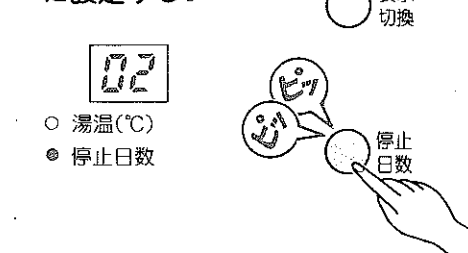
## 運転停止日数設定

旅行などで数日間お湯を使用しないときに使います。

1. 表示切換スイッチを押して表示切換ランプを「停止日数」にする。表示が「00」になります。



2. 停止日数スイッチを押して、希望の日数に設定する。



と切替わります。

- ☐ 00 : 連続運転 (通常運転)
- ☐ 日 : 連続停止 (16日以上停止)

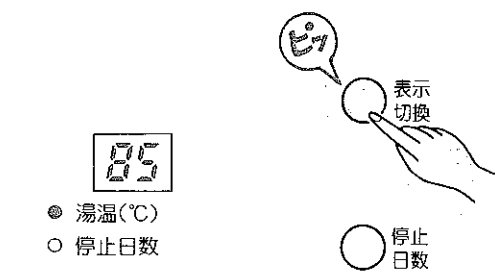
● 運転停止日数を設定する場合は、お使いになりたい日までの日数から「1」を引いた数を設定します。

例：設定する日…4月1日  
お使いになりたい日…4月4日 の場合は3日後から使用するということから 02 (3 - 1 = 2) を設定します。

運転停止が終了した場合、湯温設定は運転停止前の設定に自動復帰します。

運転停止を解除したいとき

表示切換スイッチを押して表示切換ランプを「湯温」にする。



ご注意

- 表示された日数だけお湯を沸かしません。
- 深夜電力モニターランプが点灯中に、翌日の運転を停止するときは 02 に設定してください。

## 残湯量表示

タンク内に残っているお湯の量をランプでお知らせします。

残湯量	残湯量	残湯量	残湯量	残湯量	●点滅 ●点灯 ○消灯
●湯量ご注意 ●50ℓ ●100ℓ ●150ℓ	●湯量ご注意 ●50ℓ ●100ℓ ○150ℓ	●湯量ご注意 ●50ℓ ○100ℓ ○150ℓ	●湯量ご注意 ○50ℓ ○100ℓ ○150ℓ	●湯量ご注意 ○50ℓ ○100ℓ ○150ℓ	
約150ℓ以上	約100ℓ以上 約150ℓ未満	約50ℓ以上 約100ℓ未満	約25ℓ以上 約50ℓ未満	約25ℓ未満	

ご注意 湯温が約44℃以下になると残湯量に関係なく「湯量ご注意」ランプが点滅します。

# 凍結防止について

## 必ずお読みください

周囲温度が0℃以下になる場合には配管や減圧弁、逃し弁が凍結する恐れがありますので、凍結防止対策が必要です。

凍結防止対策としては「凍結防止ヒーターによる方法」「水抜きによる方法」などがあります。

どの方法が施工されたのか据付け工事店に確認してください。

## 凍結防止ヒーターによる方法

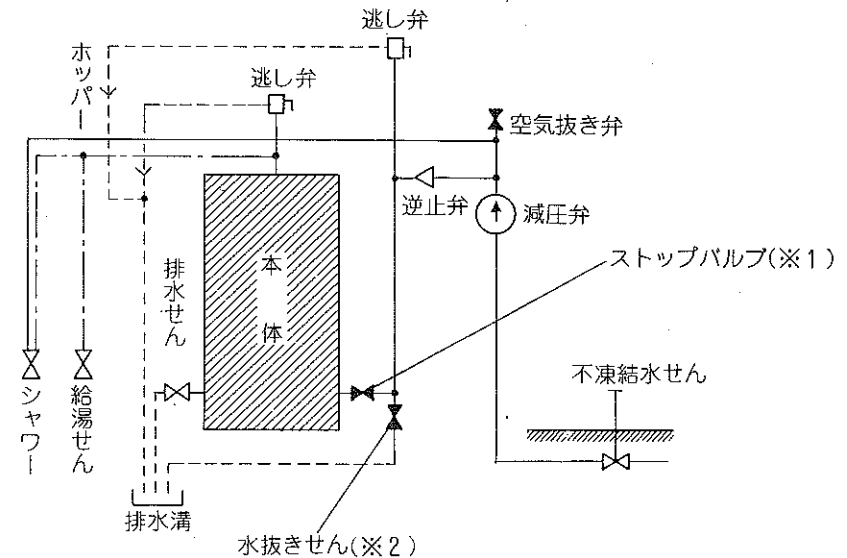
- 凍結のおそれのある給湯配管、給水配管のすべてに凍結防止ヒーターが巻かれていることを確認します。
- 凍結防止ヒーターは何本も使用されていますので、すべてのヒーターのプラグをコンセントに差し込みます。
- 凍結しない季節は安全のためコンセントからプラグを抜いておきます。

# 凍結防止について

## 水抜きによる方法

配管内の水を抜く方法です。

- ① 不凍結水せんを閉じます。
  - ② ストップバルブ(※1)を閉じ、水抜きせん(※2)を開きます。
  - ③ 減圧弁の水抜きせんを開き、押上棒を押します。(詳しくは減圧弁に付いている説明板を参照してください。)
  - ④ 逃し弁のレバーを上げ、湯水混合水せん、給湯せんを開きます。
  - ⑤ 排水せんを開き、15~20ℓ程度(約2分間)排水後閉じます。
- 〈翌朝使用するとき〉
- ① 逃し弁のレバーを下げ、シャワー、給湯せんを閉じます。
  - ② 減圧弁の水抜きせんを閉じます。
  - ③ 水抜きせん(※2)を閉じます。
  - ④ 不凍結水せんを開き、ストップバルブ(※1)を開きます。


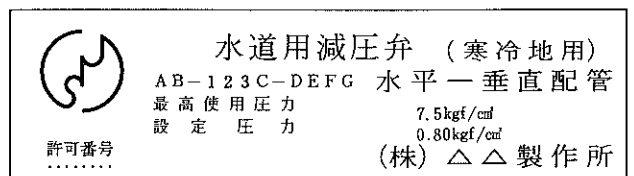
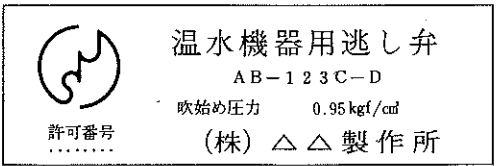




# 寒冷地仕様についてのご注意

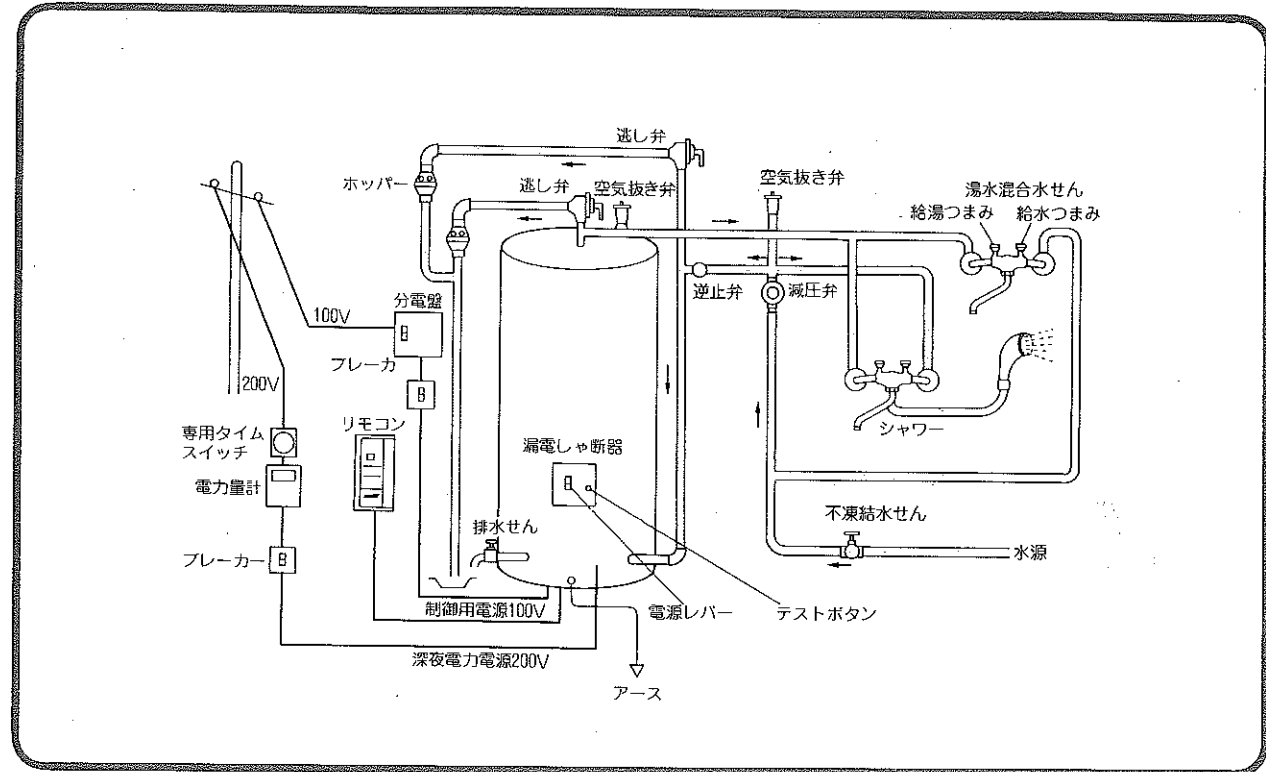
この機器は、労働省・労働安全衛生法施行令（昭57.4.20政令第124号）及び日本工業規格（JIS）により、水頭圧10m以下（1kgf/cm<sup>2</sup>以下）で使用することが義務付けられているため、必ず減圧弁及び逃し弁を取付けて使用して下さい。

- (1) 水道に直結して使用する場合は、必ず次に掲げるもので、かつ、当該水道事業者が承認するものを使用して下さい。
  - ① （社）日本水道協会の型式登録品で、かつ、検査合格証が貼られている減圧弁及び逃し弁。又は、
  - ② JISマークが表示されている水道用減圧弁及び温水機器用逃し弁。
- (2) 水道に直結する場合で、寒冷地用の減圧弁及び逃し弁の使用が義務付けられている地域では、必ず次の表示を確認の上、使用して下さい。

① （社）日本水道協会の「型式登録品で、かつ、その検査合格証のあるもの」の場合	丸・寒ラベル	減圧弁・逃し弁ともに、（社）日本水道協会の検査合格証に丸・寒表示がある。 
② JISマーク表示品の場合	減圧弁のラベル	水道用減圧弁は、設定圧力0.8kgf/cm <sup>2</sup> とJISマーク及び「寒冷地用」の表示がある。 
	逃し弁のラベル	温水器用逃し弁は、吹始め圧力0.95kgf/cm <sup>2</sup> とJISマークの表示がある。 

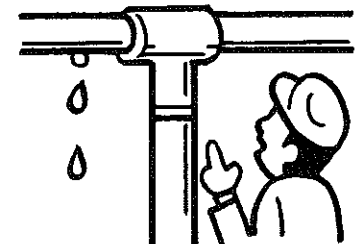
※当社専用部品は（社）日本水道協会の型式登録品で、かつJISマークが表示されていますので必ず当社専用部品をお使いください。

# 日常の点検とお手入れ



## 配管の点検（1年に1度）

配管の保温材破損や水漏れがないか、特に冬期に入る前にチェックし、異常のある場合は据付け工事店に修理依頼してください。



## タンクのお手入れ（1～2ヶ月に1度）

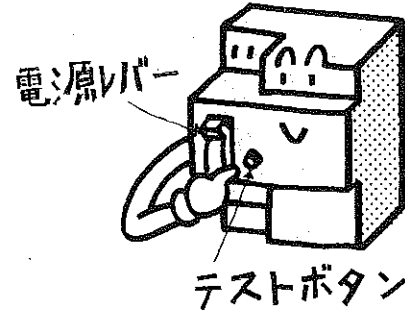
- ① 排水せんを1～2分間開き排水します。（熱いお湯が出る場合がありますので、やけどに注意してください。）
- ② 排水がきれいになったら排水せんを確実に閉めます。（排水がきれいにならなかつたら数回繰り返してください。）

# 日常の点検とお手入れ

## 漏電しゃ断器の点検(月に1度)

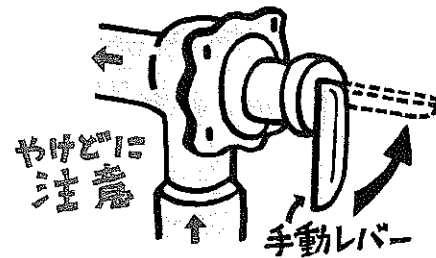
漏電しゃ断器の点検は深夜電力モニターランプが点灯中に行ってください。

- ① テストボタンを押します。  
「入」になっていた電源レバーが「切」になれば正常です。  
※電源レバーが動作しない場合は据付け工事店にご連絡ください。
- ② 電源レバーを「入」にもどします。



## 逃し弁の点検(月に1度)

- ① ヒーター通電中以外に逃し弁からお湯が出ていないかを確認します。
- ② お湯が出ている場合は、手動レバーを数回上下に動かしてください。それでもお湯が止まらない場合は不凍結水せんを閉じて据付け工事店にご連絡ください。

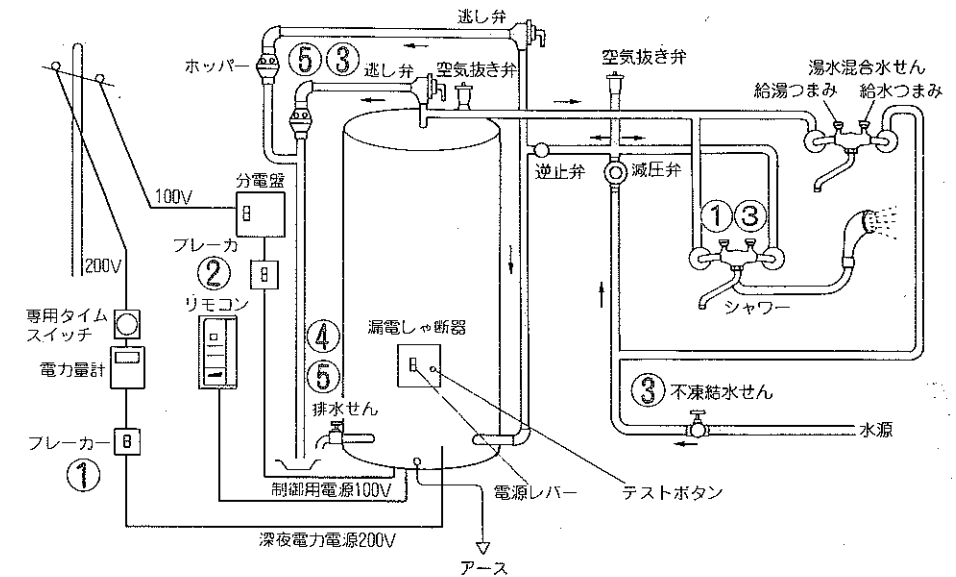


## お湯の出が悪くなっているとき

減圧弁(ストレーナー部)に水あかやゴミなどが付着していると、お湯の出が悪くなる場合がありますのでその場合は据付け工事店にご連絡ください。

# 長期間使用しないときには

## タンク内の水抜きをする場合(1ヶ月以上)



※水抜きの際、お湯をすてるムダを少なくするため、お風呂などに給湯するなど、多量のお湯を使用した後に行います。

- ① 深夜電力電源200Vのブレーカーまたは漏電しゃ断器の電源レバーを「切」にします。
  - ② 制御用電源100Vのブレーカーを「切」にします。
  - ③ 不凍結水せんを閉じてから、逃し弁のレバーを上げます。
  - ④ 排水せんを開きます。(熱いお湯が出る場合がありますので、やけどに注意してください。)
  - ⑤ 排水が終わりましたら逃し弁のレバーを下げ、排水せんを閉じます。
- ★再びご使用になるときは使用前の準備(7ページ)に従ってください。

## タンク内の水抜きをしない場合(1ヶ月以内)

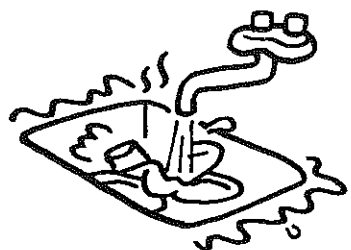
冬期、凍結の恐れのある場合は1ヶ月以内でもタンク内の水抜きを行ってください。

- ① 漏電しゃ断器の電源レバーを「切」にします。
- ② 不凍結水せんを閉じます。

# 注意していただきたいこと

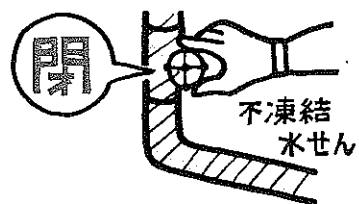
## 1. お湯のムダ使いに注意します。

貯湯量には限りがありますのでお湯のムダ使いに注意してください。また、ヒーター通電中にお湯を使いすぎると翌日、設定湯温まで沸き上がらないことがあります。



## 2. 水漏れ時の処置

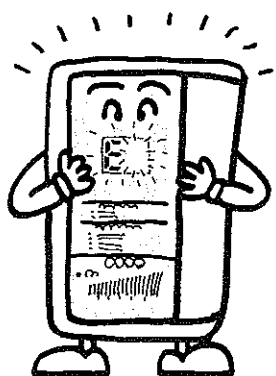
本体や、タンク負圧保護装置用ゴムホース、周辺配管などから水漏れが生じたときは、不凍結水せんをまず閉じてください。そのつぎに、据付け工事店へご連絡ください。



特にマンションなど、中・高層住宅では漏水が下層階へ被害を及ぼす場合がありますので、ときどき点検してください。

## 3. リモコンのE□表示が出たとき

リモコンのデジタル表示が「E0」「E1」「E2」「E3」「E4」で点滅したときは温度検知サーミスタが異常ですので据付け工事店にご連絡ください。また、「E6」が点滅しているときは深夜電力(200V)が供給されていないことを表していますので深夜電力電源のブレーカーおよび漏電しゃ断器の電源レバーが「入」になっているかを確認してから据付け工事店にご連絡ください。



# 修理を依頼される前に

こんなときは故障ではありません。

## お湯から油や臭いが出る

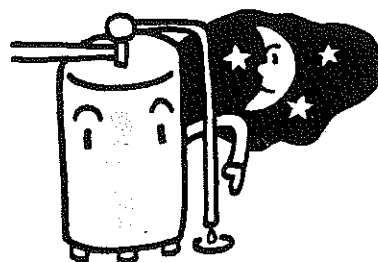
はじめて使うときは、配管工事のときの油や臭いがお湯に混ざって出る場合がありますが、しばらく後には消えます。

## ヒーターにすぐ通電されない

給水水温が高い場合や、沸き上げ湯温設定が低い場合は、マイコンの働きにより、深夜電力モニターランプが点灯してもヒーターにすぐ通電されないことがあります。

## 逃し弁からお湯が出ている

逃し弁が正常に作動していると、ヒーター通電中に水からお湯になるときの膨張分が逃し弁から出ます。



## 設定湯温まで沸き上がらない

深夜電力モニターランプが点灯中に湯温設定を「高く」したり、ヒーター通電中にお湯を使用すると設定湯温まで沸き上がらないことがあります。

## お湯を使わないのに残湯表示ランプが消える

沸き上げ湯温設定が「1」(沸き上げ湯温約55℃)のとき、外気温が低い冬期において自然放熱によってお湯を使わないのに残湯表示ランプが消えることがあります。

〔給水水温10℃以下、残湯量20ℓ未満の場合は〕90℃まで沸き上がりません。

# 修理を依頼される前に

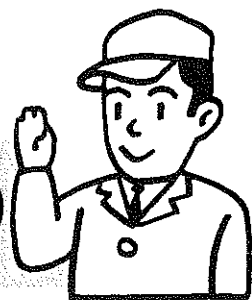
“故障かな？”と思ったときは、まず次の点を調べてください。

こんなとき	調べていただきたいこと	してもらいたいこと
お湯が出ない 出が悪い	・断水していませんか	断水が終わるまで待ってください。
	・不凍結水せんは開いていますか	閉じていれば開いてください。
	・配管部分が凍結していませんか	とけるまで待ってください。
お湯が沸かない 足りない	・深夜電力電源のブレーカーが「切」になっていませんか ・漏電しゃ断器のレバーが「切」になっていませんか (リモコンのデジタル表示が「E6」で点滅していませんか)	「入」にしてください。
	・リモコンのすべてのランプが消灯していませんか	制御用電源100Vの「入」を確認してください。
	・リモコンが「運転停止」になっていませんか	運転停止日数を「00」または表示切換スイッチにより湯温表示にしてください。 (11、12ページ)
	・湯温設定は適切ですか	上のランクに切換えてください。 (9、10ページ)
	※ ・逃し弁の排水側より昼間、お湯か水が出ていませんか	逃し弁を点検してください。(17ページ) 逃し弁を点検してもなおらない場合は減圧弁の故障も考えられますので、据付け工事店にご連絡ください。
・ヒーター通電中にお湯をたくさん使用しませんでしたか	翌日までお待ちください。	

以上のことをお調べになり、それでもなおらないときは据付け工事店または最寄りの当社相談窓口にご連絡ください。

保証期間内の場合は保証書をご提示ください。

## 定期点検のおすすめ(有料)



電気温水器を少しでも長くご満足してご使用していただくために、「日常の点検とお手入れ」(16・17ページ) や3～4年ごとに据付け工事店による保守、点検をおすすめします。

減圧弁、逃し弁、などは消耗部品です。(目安として3～4年)消耗や劣化の状態は、上記※印の点検事項をご参照ください。

# アフターサービスと保証

## ● 保証書——内容のご確認と保存のお願い

この商品には保証書がついております。保証書は据付け工事店で所定事項を記入します。記載内容をご確認いただき大切に保存してください。保証期間中の修理のときにはご提示ください。

## ● 保証期間——本体…1年(タンク5年)

保証書の記載内容により据付け工事店が修理致します。その他詳細は保証書をご覧ください。保証期間経過後の修理については、据付け工事店または最寄りの当社相談窓口にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料修理いたします。

## ● 補修用性能部品の最低保有期間について

当社は当商品製造中止後、8年を基準に補修用性能部品を保有しております。なお、保証期間中の修理などアフターサービスについてご不明の場合は据付け工事店または最寄りの当社相談窓口にお問合わせください。